

京都大学 生存圏研究所の設置について

京都大学は、附置研究所として、平成 16 年 4 月 1 日付けで、以下のように生存圏研究所を設置する。

1. 設置研究所名

京都大学 生存圏研究所

2. 設置日

平成 16 年 4 月 1 日

3. 初代所長

松本 紘 (京都大学教授、現 京都大学宙空電波科学研究センター長)

4. 設置目的

生存圏研究所は、生存圏科学に関する研究及び人材育成を行うとともに、当該分野の研究に従事する全国の国立大学の教員その他の研究者に利用させる。

5. 設置経緯

生存圏研究所は、京都大学木質科学研究所(1941 年木材研究所として創設、1991 年木質科学研究所に改組)、および京都大学宙空電波科学研究センター(1961 年電離層研究施設として創設、1981 年超高層電波研究センターを経て、2000 年宙空電波科学研究センターへ改組)の両部局を発展的に統合・再編して設立される。

木質科学研究所は、その創設以来、「木質資源の理想的な循環システムを構築し、環境保全と資源の持続的利用の両立を目指した環境共生・資源循環型社会の実現に貢献する」ことを理念として、国際・国内共同研究プロジェクトを中心に「森林圏」、「人間生活圏」に関わる学術技術研究を進めてきた。

一方、宙空電波科学研究センターは、「人間生活圏に関わる大気圏の精査および宇宙圏への人類の活



生存圏科学の概念図: 生存圏とは人類の生存に必要な領域・空間である。生存圏科学とは、これまで個別に深化してきた人間生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏の圏内科学を協同的・有機的に連関させて、人類の生存圏の状態を正確に診断するとともに、その診断に基づいて、現状とその先行きを学術的に正しく評価し、理解を深化させ、更に、新たな生存圏を開拓・創成するための先進的技術開発を目指す分野横断的、学際総合科学である。

動基盤拡大」をめざし、「宇宙圏・大気圏の学術研究および電波応用の新技術開発の研究」を全国共同利用研究、先端研究として展開してきた。

京都大学は、人類社会の持続的発展と福祉に貢献すべく独立に研究を進めてきた両部局を「生存圏」という新たな枠組みで統合する。そして、農学、工学、情報学、理学、生命科学等と連携しつつ、包括的学問分野「生存圏科学」を創成し、人類の生存と発展を脅かす諸問題の解決とその為に必要な人材育成に取り組む。

6. 研究組織

生存圏研究所は、「中核研究部」、「開放型研究推進部」、および附属の「生存圏学際萌芽研究センター」から構成される。

「中核研究部」では、これまで木質科学研究所、宙空電波科学研究センターで個別に取り組んできた学問分野を融合し、相互に知識・技術交流を行うことにより生存圏科学として深化させる研究・教育を行う。またここには、外国人・国内客員分野を設け、生存圏科学分野の拡大を図る。

「開放型研究推進部」は、全国共同利用研究機関として、①大型研究設備の運用、②データベースの提供、③ミッションに関わる共同研究プロジェクトの立案・主導を担当する。同時に、海外研究機関・大学等との連携による国際共同研究を推進する他、知的財産公開、技術移転、高等教育・啓蒙を促進し、国際社会の科学技術の発展に貢献する。

「生存圏学際萌芽研究センター」は、生存圏科学に関わる融合的・萌芽的研究を発掘し、中核研究部および開放型研究推進部へとフィードバックする創成的新領域の開拓を目的とする。「ミッション専攻研究員」、および「学内客員(兼任)」を配置し、所内教官と協力して、4 圏を融合した学際新領域への展開を推進する。

7. 研究ミッション

本研究所は、問題解決型の戦略的研究所として、人類の生存に関する直近の課題に対し、具体的に 4

つのミッションを設定し(左図)、研究所内外の関連研究者と協力体制をとりながら、その課題解決に取り組んでいく。

ミッション 1: 環境計測・地球再生

地球大気の世界規模かつアクティブな観測研究および森林圏生命科学、木質資源保全回復研究の融合により、生存圏の保全と再生可能な循環型社会の構築に貢献。

ミッション 2: 太陽エネルギー変換・利用

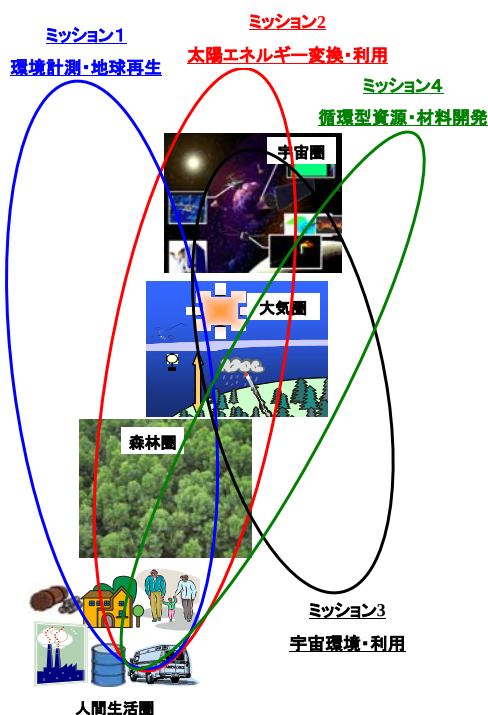
宇宙太陽発電所および木質系バイオマスのエネルギー・化学資源変換の研究を中心に CO₂を出さない太陽エネルギー依存循環型社会の基盤構築に貢献。

ミッション 3: 宇宙環境・利用

宇宙環境の観測的・理論的研究と木質資源の素材利用研究を推進し、人類の生存圏の拡大に貢献。

ミッション 4: 循環型資源・材料開発

生存圏における炭素および水の循環連鎖を観測し、それと関連させた木質資源の持続的・循環的利用技術を開発して、21 世紀型資源循環システムの基盤構築に貢献。



生存圏研究所における4つの研究ミッション